

平成26年度第2回北九州市立図書館協議会 会議録

1 会議名

平成26年度第2回北九州市立図書館協議会

2 議 題

- (1) 会長・副会長の選出について
- (2) 公共施設マネジメントについて
- (3) (仮称) 図書館のあり方について
- (4) その他 (八幡図書館について)
(小倉南図書館について)

3 開催日時

平成27年 1月30日 (金)
14時30分～16時00分

4 開催場所

北九州市立中央図書館 視聴覚センター 第2会議室

5 出席者氏名

- (1) 委員 (会長他13名、欠席委員3名)

北九州市立大学図書館長	松尾 太加志
北九州市学校図書館協議会会長	瀬藤 早苗
北九州市学校図書館協議会副会長	尾花 光雄
九州国際大学図書館長	島浦 一博
福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	固谷 寛
北九州市私立幼稚園連盟副会長	中田 俊澄
公募委員	白石 裕子
公募委員	谷之口 博美
北九州市社会教育委員	野田 弘子
北九州市婦人団体協議会理事	阿部 芳美
北九州児童文化連盟委員	柴原 佳代子
北九州青年会議所委員	小迫 美緒
日本放送協会北九州放送局副部長	大坪 和弘

- (2) 事務局 (中央図書館長他7名)

中央図書館館長	東 博幸
---------	------

中央図書館庶務課長	嶋田 直紀
中央図書館奉仕課長	深町 康幸
中央図書館庶務課庶務係長	酒井 国広
中央図書館奉仕課奉仕係長	木下 隆志
中央図書館視聴覚センター館長	三栗谷 進
教育委員会生涯学習課長	梅下 勝己
教育委員会生涯学習課図書館建設担当係長	古郷 浩一

6 傍聴者

なし

7 会議次第

- (1) 中央図書館長挨拶
- (2) 委員紹介・職員紹介
- (3) 議事（報告、質疑応答）

8 会議経過（発言内容要旨）

委員紹介・職員紹介について

- (1) 会長・副会長選出について

（事務局）

今回は昨年12月の委員改選後、初めての協議会となりますので、最初に会長・副会長の選出をお願いしたいと思います。北九州市立図書館規則17条には、「協議会の委員の互選により、協議会に会長及び副会長各1人を置く。」と規定されています。どなたか会長・副会長に立候補される方、あるいはご推薦される方はいらっしゃいますか。

（事務局）

立候補、推薦はないようなので、事務局から提案してよろしいか。

（委員一同）

異議なし。

（事務局）

先の協議会では、会長は北九州市立大学の図書館長である松尾委員が、副会長は北九州市学校図書館協議会会長の瀬藤委員でした。自薦・他薦共にありませんので、引き続き松尾委員、瀬藤委員に会長・副会長をお願いしたい

と思いますがいかがでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

(事務局)

それでは、北九州市立大学図書館長の松尾委員を会長に、学校図書館協議会会長の瀬藤委員を副会長にお願いしたいと思います。

(2) 北九州市立図書館協議会の概要

資料「北九州市立図書館協議会関連法規」に基づき、図書館協議会の概要を庶務課長より説明。

(委員)

今回から公募委員の方がおられますが、公募の方の場合には任期はどのようになり、再任についてはどうなりますか。

(事務局)

任期は、他の委員の規定と同様です。また、新たな公募というかたちで応募していただくことを考えています。

(3) 公共施設マネジメントについて

資料「北九州市公共施設白書（抜粋）」、「公共施設マネジメントに関する市民アンケート調査結果（抜粋）」に基づき、公共施設マネジメントについて庶務課長より説明。

(委員)

今後40年間で20%削減という長期目標がありましたが、図書館が対象となったときに、今後、小倉南図書館ができるということですが、この白書はどの段階での施設状況から、どれをベースにして20%削減となっていますか。

(事務局)

白書の最後に図書館の施設一覧が載っていますが、これをベースに考えています。

(委員)

20%というのは、公共施設には他に小学校とかも含めていろいろあるが、あるところの施設は結構削減されるけど図書館はそうでもない、とか、逆に図書館を削減しないといけないとか、そういうこともあり得るということでしょうか。

(事務局)

この公共施設マネジメントは、都市マネジメント政策室という専門の部署があり、そこで全体を総括していきますが、分野毎に40年間20%削減という目標を設定した上で計画を立てますので、そこには多少のこぼれというのはありえると思います。

(委員)

これは後の議題になると思いますが、図書館のあり方について議論していく中で今後その長期計画に沿った場合、削減ということもある程度見据えて今後の図書館のあり方を考えなければならないのか、それとも図書館は必ずしもそうではなく考えてもいいのか、そのあたりを、すぐに今わかるものではないでしょうが、感触としてはどういう位置づけにあるのか。

(事務局)

今ここで長期目標にあげているのが40年間で20%削減であり、今度、小倉南図書館が新たにできると、現状としてすぐ近くにある小倉南生涯学習センター内の企救分館が廃止になるといったケースは5年以内にはあるわけですが、計画自体を27年度中につくる中で今からの検討状況によるとと思いますが、どうすることが市民にとってサービスが向上するのかという点で検討いただければいいかなと思います。

(会長)

40年間のかなり長いスパンなのですぐにどうなるという見通しが立たないということもあると思いますが、こういう方向性があるって、先程アンケートを見ると、削減してもいいという市民の意見もあるということで、そういうことも将来的に見据えていかないといけないと考えます。

(委員)

長期的には財政は当然のことなのでしょうが人口も減っていくわけなので、ある程度、規模の集約といったことを考えていくと、当然近くにあるものが遠くなるといったことは当然あるわけですね。これまでどおり利用する分については比較的使いやすかったから利用していたけれど、遠くなってくるとなかなか厳しいといったこともあると思うんですね。それと一方で、高齢

化社会になるという中で交通弱者が徐々に出てくるわけで、そういうことを考えていくと、集約するのは大事なことだと思うんですけど、やはり高齢者向けに新たな対策も考えていかなければいけないと思います。私が思っているのは、例えば市民センターとかそういったところで図書館の一部をそこに利用しやすいように持ってくるとか、スポーツにも利用しやすいように、市民センターの中に、みんなが寄りやすいような機能を持ってくるとか。市民センターは多いので、もっと集まりやすい場にしていくとか、そういったことも、これからは考えていかなければいけないのかなと思います。

(事務局)

市民センターが市内に120数ヶ所、その各市民センターにひまわり文庫というのがありまして、本を置いているコーナーがあります。現在、500から600程度の冊数ですが、一定の期間で交換しながらやっている状況です。今後、そういう機能を強化するのであれば、市民センターの冊数を増やすとか、そういうことも必要になるかなという気もしています。

(4) (仮称) 図書館のあり方について

資料「(仮称) 図書館のあり方について」の検討、「これからの図書館のあり方について(答申)(抜粋)」等に基づき、(仮称) 図書館のあり方について庶務課長より説明。

(委員)

八幡西図書館はよく利用しますが、先程八幡西図書館が市内で一番来館者数が多いということを伺いました。その理由というか、来られる方たちの行ってみようという、八幡西図書館の魅力というか、こういうことだから来館者が多いということを踏まえて、他のところもそういうことは図書館の中での取り組みとか場作りとか、そういうのをどんどん活用していったほうがいいのかなど思い、八幡西図書館の状況とか、一番になっている理由がわかればと思うんですが。

(事務局)

八幡西図書館については、もともと八幡西区は市内で人口が一番多く、その多いところに図書館がないという状況があって、八幡西区民の皆さまは、他の八幡図書館とか中央図書館、または市外の水巻図書館とかを利用されていた状況で、新しい図書館ができて、施設も新しく、ソフトもDVDなど利用できるようになったので来館者数も多くなり、平成26年3月に新しいところに移転オープンしました戸畑図書館についても、今までは来館者が少なかったですけど、今は来館者数については中央図書館並みになっておりまして、またDV

Dなどサービスも良くなっているような状況です。

(委員)

西区は人口も多いし、地域も広いから、読み聞かせをしている人たちも、南部のほうの香月や木屋瀬、星ヶ丘にしても、上津役までは近くていいのですが、その辺りの方たちがどうしても図書館まで出てくるのが遠いという話聞いて、逆に水巻のほうまで行ったりとか、広いが故に、ここまでくるのが大変でもう少し近いといいのになという話も、贅沢でしょうけど聞いています。二つできるというのは無理でしょうけど。バスも近いので、利用しやすく、ありがたいと思って利用しています。

(事務局)

八幡西図書館の本は全部新しく、所蔵能力は約30万冊ありますが、開館したときには約15万冊を購入しました。だから本はきれいだ、環境もいいということでお客さんも来られる。図書館の駐車場も広いので、利便性が増していることもあって利用者が来ていると思います。

(委員)

課題のところで専門的サービスの提供というのがあったと思うのですが、この専門的サービスというのはどんなものが考えられるのか、教えて頂きたい。

(事務局)

専門的サービスというのは、図書館には図書の貸出の他に、レファレンスサービスということで、多くの利用者から古い資料が見たいとか、こういうことについて調べたいとか問い合わせがあります。それぞれの図書館でも対応していますが、中央図書館ではいろいろな専門的な分野や古い資料、郷土資料などが多くあり、そういうことに関して勉強している市民や学生の方に情報を提供するレファレンスサービスが充実していることを、一度も利用されていない方にはわからないところもありますから、そういうサービスがあることを伝えていきたいと考えています。

(委員)

専門図書とか、そういうものを充実させたいということでしょうか。

(事務局)

これから検討していくことになると思いますが、レファレンスサービスというものを市民の皆さんにどのように伝えていくかというところもあると思っています。

(委員)

政令市の比較で、人口当たりの登録者数と貸出者数と貸出冊数が低いということでありましたが、例えばすごくいいところの政令市の取り組み等、こういう風にしていただけから貸出冊数にしても登録者数にしてもアップしているという、その辺りのポイントは、どういうところでしょうか。

(事務局)

他の政令市の状況を分析していませんので、今回、図書館のあり方を検討する中で、分析しながらどうすれば上がるかというところも検討していきたいと思っています。

(委員)

いいものをどんどん取り入れていけるとプラスになっていくのではないかと思います。

(委員)

登録者数というのは、どういう数を指すのでしょうか。平成25年度の登録者数というのは、その年度に登録した人というのではないですよね。

(事務局)

登録者数については、25年度の新規だけでなく今までの累計の登録者数になります。

(委員)

人口が増えているところ、よそからの流入者が多いところは、登録者数がどんどん増えていく可能性がありますよね、出て行く人が登録抹消されるわけではないですよね。

(事務局)

登録者については、登録してもらった人で、それから6年間利用がない方は抹消していきます。そうしないと、累計していくと人口よりも増えていくことになるので、そういう形で登録者を出しています。

(委員)

その考え方というのは全国共通でしょうか。

(事務局)

全国の図書館がどうなのかというのはわかりませんが、場所によっては3年とか、5年とか期限は違いますけど、そういうかたちで数字を把握しているのが通常です。

(会長)

数字で出てくると、どうしても低いとか高いとかなり、その要因がどこにあるかということを含めて今後のあり方の中で検討していきましょう。

(委員)

今の登録者数と関係するのですが、実際に図書館を利用されている方が全館どれくらいいらっしゃるのか。登録者数は29万人くらいいますが、実際に利用している方はどれくらいか。

(事務局)

北九州市の場合、貸出者数が97万6千人で貸出冊数は382万4千冊になります。北九州市は政令市20市中、貸出者数が、対人口あたりで17番目、貸出冊数でいうと人口あたり16番目くらいになるということで、さきほど課題の中では、政令市の中では低いほうだということになっています。個人的な考えですが、一人あたりの貸出が高いところは、例えば首都圏でベッドタウン化しているところで交通アクセス、駅に近い図書館が圧倒的に利用が多いという、はっきりしたデータではないですが感じとしてはそういう感想を持っています。

(委員)

今後の図書館のあり方を考えていく上で、やはり地域ごとの特性があるので今のような状況の中で利用者が多いところと、逆に少ないところと実際にはまだら模様になっているので、今後はそういうことを考えていく際には、全体的なことはもちろん必要ですが、個別的な地域ごとの特徴も合わせながら考えていくべきなのかなと思っています。

(会長)

図書館のあり方については、これから協議していくということで、よろしいでしょうか。

(5) 八幡図書館について

資料「八幡図書館の移転整備計画について」等に基づき、生涯学習課長より説明。

(委員)

八幡西図書館で、1階から入ってすぐ左手に学習室がありますが、子どもたちがそこで勉強していて、お友達のお子さんから、隣との衝立の幅が短くて隣の勉強している動作などがすごく気になるという話を聞いたので、今後八幡図書館で学習室を作ると思いますが、実際ひとりのスペース幅を少しでもゆとりがあるような学習スペースだったらいいのかなと、そういう話を聞いていますので、よろしくをお願いします。

(事務局)

そういうお話もあると思いますが、土・日曜日は学生の利用が多くて学習室が利用できないというご意見もあって、学習室を利用できる人数を多くしてほしいといった意見もありますので、その辺を含めながら考えていきたいと思えます。

(委員)

次世代の図書館を見据えた機能を充実とありますが、CDやDVDの視聴や貸出を行う、それと飲食を行うことのできる休憩スペースとありますが、このあたりは例えば指定管理者を公募するときに、こういった運営自体も含めて公募するのか、このあたりの運営に関してはある程度決めてさせるのか、そういったところはどのように考えているのか。

(事務局)

現在のかたちでいけば八幡西、戸畑図書館では運営の中に含めてCD・DVDの視聴・貸出も行っております。人を配置して飲食を行うのかどうかというのも検討の余地もありますが、八幡図書館の場合、人を配置してまで要るのかというのがあって、今の図書館には自動販売機がない状態なので、そのため飲食のできるスペースというのがアンケート要望として強くなっていますので、自動販売機があれば足りるということもあるのではないかと考えています。そのため八幡図書館の指定管理の運営内容については、まだ決まっていません。仮に人を置くとした場合、指定管理の中に含めるやり方もあるでしょうし、その部分だけ別に委託するということもありえると思います。それはその時の判断でやることになると思います。

(委員)

参考になるかわかりませんが、北九州市立ユースステーションには学習室と飲食可能な滞在型のフリースペースがあります。今の状況から言うと、フリースペースでの学習を希望する高校生が非常に多くて、凄い時だと一日に300人近く来て、席が足りない状況の中で、学習室の要望が少なくなってきました。なぜ学習室で子どもたちが学習しないのか、間仕切りもなくて

テーブルが置いてあるだけなので、相手との距離があるという以前に、飲食が出来るか出来ないかによって左右されるらしく、飲食が出来て、かつ学習が出来るところの要望が非常に高くなっています。今後、図書館に飲食可能なフリースペースを設けると、たぶんそこに中高校生がかなりたくさん来て、一般の方々の利用が非常に難しくなる可能性は高いかなと思います。

(委員)

いろいろ変わってきていますが、食堂などでも広いテーブルに座るのを嫌がって、壁際に一人で座る席を大学でも設けています。その辺が私たち世代と違うところで、その辺も見据えていろいろ考えていかないとなかなか利用されないというのもあるのかもしれないですね。

(委員)

蔵書冊数が2万ぐらい減ることについて、減る分はどうするのか、除籍をするのかよその図書館に持っていくのか、どうするかたちが考えられるのか。

(事務局)

八幡図書館が今ある市立図書館の中でも古くからある施設ですから、かなり古い図書があります。古い図書で八幡図書館に所蔵されてなくても中央図書館にはあるということで、いくつかの館にまたがってあるものもある、古い雑誌やあまり価値のない古い図書というのがあり、そういったものを整理をした上で、なおかつ入らない図書は中央図書館なり、他の図書館に移したりといったようになると思います。

(6) 小倉南図書館について

資料「小倉南図書館整備に関する地元意見聴取等について」に基づき、生涯学習課長より説明。

(委員)

駐車場については、意見があったようですが、なかなかスペース的に難しいということでしょうね。